

指定管理者評価シート

事業名	札幌市豊平川さけ科学館運営維持管理業務	所管課(電話番号)	建設局みどりの推進部みどりの管理課(2536)
-----	---------------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市豊平川さけ科学館 ①本館 ②学習棟 ③実習棟	所在地	南区真駒内公園2-1
開設時期	①昭和59年10月2日 ②昭和61年11月11日 ③平成15年3月31日	面積	①579.2㎡ ②121.5㎡ ③220.61㎡
目的	豊平川におけるさけの回帰事業を通して生物や自然環境の保全に関する知識の普及啓発を行い、自然の豊かな都市環境の形成に寄与する。		
事業概要	さけのふ化並びに成長過程を観察する場の提供、さけの生態並びにさけの生息できる自然環境の保全に関する資料の展示、さけに関する学習の指導及び豊平川におけるさけの回帰に関する事業		
主要施設	本館、学習棟、実習棟		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市公園緑化協会		
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
募集方法	公募 非公募の場合、その理由:		
指定単位	施設数: 1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	さけのふ化及び成長過程を観察する場の提供に関する業務、豊平川におけるさけの回帰に関する業務、さけの生態並びにさけの生息できる自然環境の保全に関する資料の展示とさけに関する学習の指導に係る業務及び環境教育に資するイベントの計画実施業務		
3 評価単位	施設数: 1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和6年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1)統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 当団体の運営方針である、公平・公開・効率・協働・環境の「5つのK」を基に、以下の①～⑤に示す「管理運営の基本方針」を策定した。 ① 平等・公平な利用の機会を確保し、さけ科学館の公共福祉増進の場としての利用効果を高める。 ② 関係法令・条例等を遵守し、さけ科学館の利用者や市民の声の反映に努め、開かれた管理運営による安全で安心、快適な利用環境を提供する。 ③ さけ科学館の資源・施設の長寿命化を念頭に置き、効率的な管理運営による経費削減を図り、安定した質の高いサービスを提供する。 ④ さけ科学館を環境教育のコミュニティ活動の拠点と位置付け、市民や団体、関係諸機関との連携・協働を推進し、集いの場としての魅力を高める。	子供から大人までの各年齢層を対象にしたプログラムを企画し、幅広い年齢層の利用を促進をした。お客様の意見や要望をできる限り取り入れ、公平性と平等性を適切に確保し、団体や学校からの解説案内や実習、博物館での実習の依頼に応じ、環境教育の拠点としての役割を果たした。管理運営においては、関連する法令を厳守し、適切な利用環境を提供した。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 25%;">A</th><th style="width: 25%;">B</th><th style="width: 25%;">C</th><th style="width: 25%;">D</th></tr> <tr> <td colspan="4"> 基本方針の実現に対して幅広い年齢層への対応や環境教育の拠点としての役割を果たすなど適正に取り組んでいること及び、関係諸機関と協働した積極的な環境教育の普及活動を評価します。 今後も法令を遵守し、質の高いサービスと平等利用の実現に努めてください。 </td></tr> </table>	A	B	C	D	基本方針の実現に対して幅広い年齢層への対応や環境教育の拠点としての役割を果たすなど適正に取り組んでいること及び、関係諸機関と協働した積極的な環境教育の普及活動を評価します。 今後も法令を遵守し、質の高いサービスと平等利用の実現に努めてください。			
A	B	C	D								
基本方針の実現に対して幅広い年齢層への対応や環境教育の拠点としての役割を果たすなど適正に取り組んでいること及び、関係諸機関と協働した積極的な環境教育の普及活動を評価します。 今後も法令を遵守し、質の高いサービスと平等利用の実現に努めてください。											

⑤ 札幌の水辺環境のシンボルであるサケを守り育てる活動を通じて、水辺環境の保全とともに、市民の環境を大切に思う心をはぐくむ。

サケや淡水魚の観察会では、サケに加えて札幌周辺の水辺の生物の現状や外来種についても積極的に啓発活動を行った。河川調査の際には、市民に積極的に声をかけて解説を行い、近隣住民と情報交換をするなど、様々な場面での取り組みを進めた。また、出前授業等を通じて、水辺環境の保全についての啓発活動を行った。

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

年齢や障がいの程度、性別、主義・主張、思想・信条、民族や言語、社会的地位や身分の違い等によって、さけ科学館の平等利用が妨げられないよう、また、利用者に不公平感を抱かせることのないよう、徹底したスタッフ教育による管理運営を行った。

- ・障がい者の利用機会の確保に努めた。
- ・子育て層が快適にさけ科学館を利用できるよう、授乳希望者への案内・対応を実施した。開館中やイベントの際にはさかな館の部屋等を授乳室として利用いただくよう調整した。
- ・苦情・要望・提案等の申し立てによって差別が生じないよう、スタッフ教育の徹底に努めた。
- ・施設利用に関する情報収集を常に行ってスタッフ間で共有し、館内掲示板やホームページにより、必要な情報をリアルタイムで発信した。
- ・さけ科学館で実施するイベントやプログラムの情報、河川のサケ観察情報、施設利用情報など、利用者のニーズに的確に応える情報提供を行った。
- ・団体利用の連絡情報に基づいて管理作業のスケジュールを調整するとともに、利用者が過度に集中しないよう、利用日時の調整を図った。
- ・さけ科学館の管理者側の一時的な事情により、利用者が展示物の見学や体験等の機会を逃すことのないよう、きめ細かい情報発信を行った。

- ・参加者が限られる実習等については、不公平感の排除に努め、人気の実習については、公正な抽選により参加者を決めた。
- ・イベントの際は、過度な混みあいに気をつけ、全員が参加できるように運営を工夫した。

全スタッフの研修と指導を通じて、平等で公平な利用機会を適切に確保した。また、館内利用やイベント開催時、苦情対応時には、差別や特別扱いがないように注意し、適切な対応を心掛けた。イベントチラシやホームページ、SNS、館内掲示などを活用して、施設やイベントの最新情報を広く提供できるよう努めることができた。

平等利用の実現に向け、スタッフの意識の向上と施設の情報提供を行っているものと評価します。引き続き利用者の公平性確保に向け、丁寧・親切な対応を心がけ、要望・意見・苦情等には適正に対応してください。

外国人向けの表記については、利用状況を見ながら必要な表示を追加して対応した。対話の際には、スマートフォンの翻訳アプリを活用し、緊急時には多言語の救急問診シートを常備している。また、多くの参加者が予想されるイベントでは、事前申込制を導入するなどの配慮をして実施した。

▽ 地球温暖化防止対策及び環境配慮の推進

令和6年から北海道環境マネジメントシステムスタンダード(HES)[ステップ1]を返上し、当協会独自のEMSを運用することにより、環境負荷の低減に向けた各種取組を実施した。

・光熱水の使用及びごみの排出について、それぞれ削減に努めた結果、前年度比で、LPガスは98.5%、水道は113.7%、一般ごみ排出量は91.8%、電気使用量は106.7%となった。
・「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」の拠点施設として参加しており、今後も身近な水辺の生き物を通じて札幌の生物多様性保全への関心が高まるよう、取組を進めた。

・EMSの環境目標のひとつであるノー残業デーの超過勤務時間について、前年度実績を上回らないことを目標として取り組んだ。野外調査業務においては、天候・河川増水状況等を見ながらスケジュールを設定する必要があるため、業務に支障が出ない範囲内で取り組むように努力した。
・環境に関する自覚教育を4回実施した。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

・統括責任者、統括責任者代理を配置した。
・年度当初に業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を確認した。
・当初の研修計画に基づき、研修を実施した。その他飼育技術等に関する外部の研修会・会議に参加し、さけ科学館に必要な知識・スキルの取得に努めた。

LPガス・一般ごみは、意識を持って節減・節約に努めた結果、使用量を削減することができた。電気使用量は、サケ受精卵の成長速度調整と、耳石温度標識に伴うノイズ防止のため、循環式冷却水槽で飼育管理した結果、増加した。今後も無理のない範囲内で、スタッフ全員で改善・削減への取組に努めていきたい。
生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの連携事業「いきものつながりオンラインクイズラリー2024」に参加し、生物多様性の重要性について普及啓発をすることができた。

全スタッフで「日曜日はノー残業デー」という意識を持ち、業務の効率化を図り、エネルギー使用量削減に繋がることを意識して、対応可能な範囲で今後も取り組んでいく。

管理運営体制を整え、問題なく適切に業務を実施できた。研修等は予定通り実施し、来館者への対応や電話問合せ、飼育管理に役立てることができた。

適切に実施されています。昨今の電気及び燃料費の高騰による維持管理費の増加を抑えるためにも、節電等の取り組みは必須と考えられるので、引き続き取り組んでください。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

・来館者の快適性の向上、及びスタッフを含めた安全性の確保のため、危険予測(KY)・ヒヤリハット収集票を作成し、スタッフ全員で情報を共有し、作業手順の改善に役立て、事故防止に努めた。
 ・草刈り機・除雪機等の作業機械を使用する際は、研修以外にもスタッフ全員に対して口頭により指導を実施するなど、安全確保の取組みを適切に実施した。また、ニュース等で除雪機により事故があった際は、朝礼で内容を共有し、事故を未然に防ぐように努めた。
 ・サケ稚魚餌付けの際は、寄生虫が稚魚体表に付きにくくする「サーモンリキッド」を添加した餌を給餌した。

来館者やスタッフに事故や労働災害は発生はなかった。他の公園での業務災害については、団体全体で情報を共有し、迅速かつ適切に再発防止策を講じた。朝礼では、車両を使用する日や交通安全週間に合わせて、通勤時を含めた運転の注意喚起を定期的実施し、車両使用前にも口頭で注意を促した。今後も全スタッフで安全確保に努め、来館者の事故や労働災害を防ぐため、気を引き締めて業務に取り組む。
 サケの稚魚には「サーモンリキッド」を点火した餌を与え、寄生虫が付きにくくなり、健康な稚魚を放流することができた。

スタッフの意識向上に努め、団体全体で安全性の確保に向け取り組んでいることを評価します。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

定期清掃、日常清掃、機械警備、電気設備点検、消防設備点検、塵芥処理、産業廃棄物処理、受水槽清掃、自動ドア保守点検、温風暖房機保守点検、建築物法定点検、駐車場・園路除雪の業務については第三者に委託し、仕様書の通り適切に実施した。

施設・設備等の委託業務は、仕様書の通り適切に実施した。

適切に実施されていることを評価します。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整（市民との協働、地域等の連携、運営協議会等の開催）

・さけ科学館ボランティアの会（登録者数17名）では、イベント・飼育補助、施設管理補助等の活動を行った。

・さけ科学館・河川管理者・行政・大学の研究者・企業が運営する「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」の活動として、豊平川の野生サケを優先的に保全し、サケやその他魚類の生息環境の改善等を検討し、サケ遡上数が大きく減らないよう放流数をコントロールする「順応的管理」を導入し、豊平川に回帰するサケ親魚のモニタリング調査、サケ稚魚降下調査等を共同で実施した。また、「札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム2025 川の環境の目標を一緒に考えよう！」では、豊平川のサケ調査と、山鼻川の環境保全活動を紹介した（参加者169名）。

・近年、道内で分布を広げている国内外来種のアズマヒキガエルは、令和元年には札幌市南区内での大量発生、繁殖が確認され、在来の両生類など地域の生態系に与える影響が懸念されており、早急な対応が求められることから、市民への外来種問題認知の促進活動に加え、市民団体「かんガエル」・市環境共生担当課への情報提供、調査や防除などの面で協力した。

・豊平川水系に生息している特定外来生物ウチダザリガニの発生源を調べるため、北海道大学・市環境共生担当課・円山動物園・北海道自然環境課・環境省北海道地方環境事務所と共同で分布域調査及び計測作業を実施した。

ボランティア活動を積極的にサポートし、飼育管理補助や水辺の生き物観察会やサケフェスタ等において活躍していただいた。札幌ワイルドサーモンプロジェクトの活動として行っている野生サケの保全活動は、準認定施設のさけ科学館の管理運営方法として貴重な取り組みであった。今後についても継続的に活動を行っていききたい。また、市民フォーラムでは、サケや水辺の生き物にとってどのような環境が、どれくらいあると良いのか、河川管理者とともに考え、市民が川の環境について考えるきっかけづくりができた。アズマヒキガエル及びウチダザリガニアズマヒキガエルは、地域の生態系に与える影響が大きいことから、今後も積極的に協力をし、普及啓発活動にも力を入れて実施していく。地域の団体等からの協力依頼や連携行事に対しては、今後も可能な限り協力するように努める。

地域との連携・協働が積極的に行われていることを評価します。

開催回	協議・報告内容
運営協議会 3月13日	・管理業務の実施状況について ・管理運営上の問題点、設備等の改善提案 ・動物園ステップアップ制度について ・豊平川の環境目標の数値化について ・石狩川流域ネットワーク推進協議会について
<協議会メンバー> 札幌市みどりの管理課 係長・担当職員 事業1課長・さけ科学館館長（マネージャー）・主任（サブマネージャー）	

運営協議会に限らず、日常的に所管部署と緊密に連絡を取り合うようにした。北海道開発局、市の環境共生担当課、環境省北海道地方環境事務所、市の河川事業課、水産研究・教育機構水産資源研究所、札幌ワイルドサーモンプロジェクトなどと、河川の状況やサケ・水生生物の分布状況について情報を共有するよう努めた。

	▽ 財務(資金管理、現金の適正管理) ▼資金管理については、指定管理業務や自主事業等、公園ごとに区分している。 ▼当協会の規定に基づき、現金や金券類、預金通帳等の施錠管理や帳簿類の内部監査を年2回実施しているほか、公認会計士事務所による外部監査を導入している。 ▼現金等の取扱いに関しては、現金取扱規定を整備しており、管理体制の強化及び不祥事防止の取組みを行っている。 ▽ 要望・苦情対応 さけ科学館の施設やサービス、維持管理についての苦情等の情報については、苦情等対応報告票に記録して組織で共有する手順を整えている。 令和6年度の苦情は無かった。 ▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施) ▼ アンケートは、来館者及び各種体験等の参加者を対象に実施し、分析結果を札幌市へ報告するとともに、職員間で供覧して共有し、改善点等を次回の事業や管理運営に反映させた。 ▼ 施設の管理運営についての自己チェック・評価を実施した。	不正行為や事故発生の未然防止のため、複数名による現金等の確認を徹底した。 不正経理等はなく問題はない。 利用者から直接、感謝や称賛の言葉をいただくことが多く、スタッフやボランティアの意欲向上に繋がった。 R6年度は苦情はなかったが、今後も引き続き、お客様が満足できる対応を行う。 要望・意見・苦情等に関しては、改善の機会ととらえ、今後も計画した手順に従い、適正に対応する。 各種体験等のアンケートでは満足度で高い評価が得られた。自由記述の意見・要望についても改善の材料とした。 指定管理の計画・提案内容の履行状況を定期的にチェックすることで、目標に向けた管理運営を適正に遂行できた。	適切に実施されています。今後も、不正行為等を未然に防止するための取り組みを徹底し、適切な資金管理に努めてください。 苦情が発生しておらず、対応の手順を整えていることを評価します。今後も要望・意見・苦情等に対しては、計画した手順に従い、適切に対応を行ってください。 適切に実施されていることについて評価します。
--	--	--	---

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)		A B C D
	▼ スタッフの雇用に関して、労働基準法、最低賃金法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、健康保険法・厚生年金保険法、雇用保険法、労働契約法、男女雇用機会均等法、次世代育成支援対策推進法、女性活躍推進法、育児休業・介護休業等に関する法律、労働保険の保険料の徴収等に関する法律、その他関連する法令等に基づき、主として以下のような届出・対応等を行った。 ・全てのスタッフに対し、北海道最低賃金1,010円(令和6年10月1日発効)以上の時給を支給した。 ・施設で働く職員に対し、時間外労働・休日労働及び深夜残業をさせた場合、それぞれ法定割合以上の割増賃金を支払った。 ・就業規則・要綱の改正を行い、札幌中央労働基準監督署に適切に届け出た。 ・全スタッフの就業時間や休日等について、労働基準法を遵守した。 ・スタッフに時間外労働又は休日労働をさせるにあたり、書面による労使協定(36協定)により必要な定めをし、札幌中央労働基準監督署に届け出た。 ・全てのスタッフを労災保険適用とし、条件を満たすスタッフを雇用保険に加入させた。 ・労働保険料等算定基礎賃金等の報告を北海道労働局へ提出し、労働保険料を納付した。 ・スタッフの勤務形態、家族状況等に応じて健康保険・年金保険資格を取得するよう、適切に届け出を行った。 ・年1回の定期健康診断及びストレスチェックを実施した。 ・短時間雇用管理者を選任し、北海道労働局へ届け出た。 ・有期雇用契約者のうち、無期転換申込権が発生した者に対して周知し、希望の申し込みを随時受け付けた。 ・次世代法及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を公開・周知した。 ・女性活躍推進法に基づく認定制度「えるぼし」において、女性の活躍推進に関する状況等が優良な団体として「認定段階3」を受けたことを周知した。 ・安全衛生委員会を設置し、毎月1回、各公園の担当課長が出席して委員会を開催し、職場の安全確保及び健康障害の防止に係る議題について検討し、その結果を各公園・施設のマネージャーを通してスタッフに周知して、健全な職場環境の実現に努めた。 ・維持管理作業従事者を対象に、作業における安全確保や機械の取扱いに関する講習を実施した。 ・ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、育児休業等の取得奨励、職場内コミュニケーションの活性化、有給休暇取得の奨励、ノー残業デーの設定などの取組みを行った。 ・公的資格の取得支援、接遇や安全・技術等に関する内部研修の実施、優秀なスタッフや高年齢者の継続雇用など、雇用環境の整備により、市民サービスの向上等に結びつく取組みを行った。 ・第三者への委託業務について、受託者に当該業 ▼ 正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員から3名が正規職員となった。 ▼ 労働災害 0件	指定管理施設の現場と本部事務局との連絡調整を密にするとともに、関係機関への必要な届出を迅速かつ確実に行うなど、労働関係法令を遵守し、すべての関係手続きについて適切に対応できた。 当団体での労働災害発生ゼロを目指して、毎朝のKY活動、ヒヤリハット事例の共有、安全大会の開催、安全講習の実施等に取り組んだ。 事故が発生した際には、安全衛生委員会において、原因検証と再発防止の検討を実施し、安全な職場環境の実現と、スタッフの雇用環境の向上を進めるなかで、市民サービスの向上につなげることができた。今後も全スタッフに安全教育を行い、事故が発生しないように努める。	法令順守や雇用環境の向上に努め、適切に対応していることを評価します。労働災害の防止についての活動は今後も継続して行ってください。

(3) 施設・設備等の維持管理業務

▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)

- ・維持管理業務の実施時には、施設の利用の支障にならないよう配慮するとともに、利用者に対し十分に案内するよう努めた。
- ・真駒内公園駐車場車止め付近にさけ科学館の電話番号を表示し、緊急時に利用者が通報しやすい環境を整えた。
- ・作業機械を使用する前に安全教育を実施し、安全な使用方法や危険予測等について教育をした。
- ・緊急時のスタッフ間の連絡手段として、携帯電話による迅速な連絡が可能な体制を取った。
- ・さけ科学館における拾得物の取扱いは、遺失物法に基づき適正に行った。
- ・管理業務の実施に際して、当協会の過失等により札幌市または第三者等に損害を与えた場合に備え、仕様に適合した損害賠償責任保険に加入した。

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

- ・定期清掃、機械警備、電気設備点検、消防設備点検、塵芥処理、産業廃棄物処理、受水槽清掃、駐車場・園路の除雪については、第三者への委託により適切に実施し、仕様書の水準に達した。なお、一部日常清掃はスタッフで行い、経費削減に努めた。
- ・5/11(土) 飼育用水漏水箇所が判明し、6/6(木)に市において修繕工事が実施され、漏水が止まる。
- ・6/5(水) 本館展示でサケの映像を上映している大型モニターが故障し使用できなくなり、修繕費が10万円以下のため、協会において修繕を実施した。
- ・7/30(火) 井戸点検整備業務が開始し、7/30(火)～8/3(土)の期間で一号井(小学校側)、8/6(火)～8/10(土)の期間で二号井(中学校側)の点検整備を行い完了し無事水量はが回復する。
- ・10/16(水)～31(木) さかな館外壁補修工事が建築保全課により実施される。
- ・10/21(月)～22(火) 飼育池コンクリート補修工事がみどりの管理課によって実施される。
- ・1/29(水)、温風暖房機のVベルトに亀裂が見られ、交換作業を実施した。また、直営で実施する事により、部品代のみで経費削減につなげることができた。

敷地内での作業の際は、声かけや周囲に気を配り、作業車両使用時には二人一組で対応するなど、利用者への安全配慮を最優先として作業を実施した。除雪機や草刈り機等の使用については、シーズン前に安全教育を実施し、報道等で事故があった際は、その都度注意喚起した。拾得物の取扱いは、遺失物法、当協会の規定、及び南警察署の指示に基づき、適正に対応した。今後もお客様が安心して施設を利用できるように努める。

重要な設備等については、札幌市と適切に情報共有した上で、定期点検のほか日常的な自主点検・記録により、突発的なトラブルの予防に努めた。飼育用水漏水箇所は、地中に配管が埋まっているため漏水箇所を見つけることが難しかったが、注意して敷地内を巡回し僅かな異変を見つけて漏水箇所を特定し、早急な修理につなげることができた。井戸点検整備の際は、飼育水量が減少するため、飼育魚に影響がないように給水量を調整し、各水槽の飼育密度に合わせて酸欠にならないように気をつけて管理をした。軽微な修繕等は直営または当協会他公園の協力に対応し、経費削減につなげた。今後も設備の知識を深めて経費削減、応急処置ができるように努める。

A	B	C	D
利用者の安全確保を優先した作業実施、緊急時の連絡体制などの配慮がなされていることについて評価します。また、軽微な修繕や日常清掃等を行い経費削減に努めていることについて適切な対策がなされていることについて評価します。今後とも、利用者の安全・安心に配慮した維持管理に努めてください。			

	▽ 防災 ・利用者の安全・安心を最優先し、危機管理対策・対応については「予防・未然防止対策」、「初動処置・対応」、「再発防止・対応改善対策」の3段階に区分し、各段階において対策を行った。 ・年度の防災計画を策定し、4月に火災・地震・強風等への対応訓練、3月に融雪期の周辺状況を把握した避難・誘導の消防訓練を実施した。	火災・地震・強風への対応訓練を実施した。3月に融雪期の周辺状況を想定した消防訓練を実施した。全スタッフと状況を共有し、災害の際に起こりうる事態と対応についてはスタッフ全員で話しあった。 台風等による強風で落ち枝・倒木等の被害について、隣接する河川敷地でも発生する可能性があるため、管理範囲外ではあるが安全確保が保てる体制をとるようにした。	適切に実施されています。今後も、防災に備えた体制の確保に努めてください。								
(4)事業の計画・実施業務	▽ さけ科学館における普及啓発事業 ・サケ稚魚体験放流 3回2,277人(計画2,500人) ・わくわく体験(エサやり・サケタッチ) 10回417人(計画400人) ・知る・みる・カニさん・ザリガニさん 38人(計画30人) ・両生類のエサやり体験 4人(計画4人) ・知る・見る・カエルさん 24人(計画30人) ・さかなウォッチング 3回 64人(計画75人) ・さっぽろサケフェスタ 778人(計画1,000人) ・サーモンウォッチング・観察会 3回213人(計画200人) ・サケの採卵実習 16人(計画25人) ・サケの人工授精体験 91人(計画100人) ・札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム 169人(計画100人) ・サケ飼育員の解説ツアー 7人(計画15人) 計4,098人(計画4,479人) ※一部実習は事前申込み制とし、応募者多数の場合は抽選で参加者を決定した。	R6年度の夏季に開催された実習は、熱中症に注意をし、時間短縮や中止なども視野に入れて、お客様の安全を第一に考えて実施した。 「さっぽろサケフェスタ」では館内クイズラリーなど各ブースとも好評であった。 申込が必要なサーモンウォッチングは、雨天順延したため、参加者数が減少した。 札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラムでは、豊平川のサケ調査と、山鼻川の環境保全活動を紹介したのち、パネルディスカッションでは、サケや水辺の生き物にとってどのような環境が、どれくらいあると良いのか、河川管理者とともに考え、市民が川の環境について考えるきっかけづくりができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 適切に普及啓発に努めているものと判断し、特に参加者の満足度の高さを評価しています。今後、より多くの方が興味を持ち、参加してもらえるような事業を計画してください。 </td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	適切に普及啓発に努めているものと判断し、特に参加者の満足度の高さを評価しています。今後、より多くの方が興味を持ち、参加してもらえるような事業を計画してください。			
A	B	C	D								
適切に普及啓発に努めているものと判断し、特に参加者の満足度の高さを評価しています。今後、より多くの方が興味を持ち、参加してもらえるような事業を計画してください。											

	▽ 生物に関する相談業務 ・生物の飼育・生態等に関する質問・問合せ等は計132件あり、それぞれ適切に回答したほか、必要に応じて資料の送付・書籍・専門家の紹介等を行った。 ▽ さけ科学館の業務に関する情報収集及び提供業務 ・水産資源研究所等の研究機関が発行する文献や、ホームページで公表される情報を収集してスタッフで供覧し、展示・解説案内に反映させた。 ・業務上有益な研修会・会議等には可能な限り出席するように努めた。 ・6/8(土) 令和6年度サケネットワーク総会及び全道サケ会議に出席 ・8/8(水) 令和5年度さけます報告会に出席 ・10/16(水) 石狩川流域委員会に出席(豊平川河川整備計画についての研修会) ・12/7(土) 魚類系統研究会に出席 ・2/13(木) 第1回生物多様性保全連携協議準備会の出席 ・2/19(水) 令和6年度全道漁協漁場環境保全研修会に出席	サケやサクラマスのほか、水辺の生き物全般にわたって様々な質問を受け、解りやすい適切な回答を心掛けた。 今後も書籍や関連資料等を収集し、また、水辺の生物を中心に、研修会や会議にも可能な限り出席して、分かりやすく回答ができるように努める。 文献等の情報共有により、利用者への適切な案内・回答につなげることができた。回答をする際は分かりやすい説明をするように心掛けた。 Zoom等を使用したオンラインにおいて、業務上有益な会議・研修会等に積極的に参加し、得られた最新の研究成果等は、利用者への解説に役立てることができた。	多くの方に生物や環境への興味を持っていただくため、今後も適切で分かりやすい回答に努めてください。 外部の研究成果等の情報を積極的に収集し、業務に係る新たな知見を得ることで利用者サービスの向上につなげているものと評価します。																											
(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 令和6年度 <table><tr><td>入館者数</td><td colspan="2">52,105 人</td></tr><tr><td>解説案内・学習対応</td><td>57 件</td><td>2,135 人</td></tr><tr><td>外部依頼の実習等対応</td><td>47 件</td><td>3,167 人</td></tr><tr><td>ボランティア活動(のべ)</td><td>118 日</td><td>221 人</td></tr><tr><td>図書貸出</td><td>26 件</td><td>50 冊</td></tr></table>	入館者数	52,105 人		解説案内・学習対応	57 件	2,135 人	外部依頼の実習等対応	47 件	3,167 人	ボランティア活動(のべ)	118 日	221 人	図書貸出	26 件	50 冊	入館者数は52,105人(前年度49,953人)で、前年より増加した。天候が良い月が多く、1月は降雪量も少なかったため入館者数が増加したが、7月は真夏日が続き減少した。12月は寒さと雪で減少し、2月と3月は降雪が多く伸び悩んだ。来て頂いたお客様に満足していただけるよう、スタッフ全員で親切な説明・解説を心掛けた。	<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td colspan="4">利用促進に対する努力について評価します。</td></tr><tr><td colspan="4">施設の構造上天候の影響を受けやすいですが、更なるリピーターの増加と新規利用者獲得に向けて引き続き工夫に努めてください。</td></tr></table>	A	B	C	D	利用促進に対する努力について評価します。				施設の構造上天候の影響を受けやすいですが、更なるリピーターの増加と新規利用者獲得に向けて引き続き工夫に努めてください。			
入館者数	52,105 人																													
解説案内・学習対応	57 件	2,135 人																												
外部依頼の実習等対応	47 件	3,167 人																												
ボランティア活動(のべ)	118 日	221 人																												
図書貸出	26 件	50 冊																												
A	B	C	D																											
利用促進に対する努力について評価します。																														
施設の構造上天候の影響を受けやすいですが、更なるリピーターの増加と新規利用者獲得に向けて引き続き工夫に努めてください。																														

	▽ 利用促進の取組 ・マスコミ取材の際には、イベントの告知を入れてもらうよう依頼するなど、利用促進に繋がるように努めた。 ・講師や実習、展示などの依頼については、可能な限り受け入れ、さけ科学館のPRに努めた。 ・11/9(土)～10(日)に、エスコンフィールドで開催された北海道日本ハムファイターズとの連携業務「しゃけまる水族館」では、計23,000人の来場者で大変賑わい、多くの来場者にさけ科学館のPR活動を行うことができた。	マスコミ等の取材時は、イベント告知をしてもらえるよう要請し、さけ科学館のPRに努めた。近年は、外部依頼の実習・展示協力が増えており、入館者数だけでは評価できないさけ科学館の利用が多い。外部への講師の派遣は、さけ科学館のPRにも繋がるため、可能な限り受け入れるように努めた。引き続き利用促進に取り組んでいく。	市の広報以外のマスコミやチラシ等を利用した積極的な周知を評価します。今後もさけ科学館の知名度の向上と利用促進のためPRに努めてください。								
(6) 付随業務	▽ 広報業務 ・イベント情報は、さけ科学館ホームページや館内掲示のほか、市広報・マスコミやその他の関係団体などを通じて提供し、PRに努めた。 ・ホームページは随時手直しをして利用し易さを改善し、サケ観察情報など最新情報の掲載に努めた。 ・メールフォームの活用 公式ホームページ内のメールフォームから来る問合せに即時に対応した。 ・facebook、X、Instagram ツールの特性を生かし、利用時のお願いを都度アップし、ダイレクトメールでの質問に即時返答するなど、館の管理運営への理解を深めていただくよう努めた。 ・館ホームページのウェブアクセシビリティ研修を担当職員対象に実施した。 ・令和6年度のホームページに134,902件のアクセスがあった。 ▽ 引継ぎ業務 前回から継続指定を受けており、引継ぎ業務はない。	イベント情報については、マスコミの別件取材の際にも、掲載依頼するなど広報を実施し、利用者増につなげた。館外でのイベント等では、さけ科学館のPR活動を行い、利用促進に努めた。ホームページ及びSNS等では、最新の情報発信に努め、利用者が情報を得る手段としての利用増に繋げるよう努力した。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> ホームページのアクセス数は年々増加しており、積極的に最新情報の発信に努めている点を評価します。また、館外でも積極的なPR活動を行うなど、広報意識の高さが伺えます。今後も情報提供の場を広げ、新規利用者の増加につなげてください。 </td></tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	ホームページのアクセス数は年々増加しており、積極的に最新情報の発信に努めている点を評価します。また、館外でも積極的なPR活動を行うなど、広報意識の高さが伺えます。今後も情報提供の場を広げ、新規利用者の増加につなげてください。			
A	B	C	D								
ホームページのアクセス数は年々増加しており、積極的に最新情報の発信に努めている点を評価します。また、館外でも積極的なPR活動を行うなど、広報意識の高さが伺えます。今後も情報提供の場を広げ、新規利用者の増加につなげてください。											

2 自主事業その他

▽ 自主事業		A	B	C	D
・売店営業 ・自販機設置 ・受託業務(調査業務・技術指導の業務)2件 ・自主事業申請イベント開催数10件(その他のイベント等は本来業務) ・外部に対する講師派遣、展示協力、調査研究協力等対応 139件		調査等の受託業務は、本来業務に支障のない範囲で行い、得られた知見は教育・解説活動等に役立てた。		調査業務や外部協力、イベント開催など積極的に取り組んでいることを評価します。今後も利用者ニーズの把握に努め、より多くの方が興味を持ち、参加してもらえるような事業を計画してください。	
▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ・定期清掃などの第三者委託業務は、市内企業に発注した。 ・売店商品の一部は、「元気ショップ いこ〜る」等から仕入れた商品を販売した。		売店では、就労支援施設等で製作されたサケにちなむ小物などを販売し、好評を得られた。		市内企業の優先活用や福祉施策への配慮がなされていることを評価します。	
▽ 利用者アンケートの結果		A	B	C	D
実施方法	館内にアンケートボックスを設置した。また、イベントでアンケートを実施した。	総合満足度・接遇に関する満足度ともに、全スタッフが親切・丁寧に対応した結果、95%以上の非常に高い評価を得られることができた。 今後もお客様から貴重な意見の徴収の機会として対面によるアンケートを実施し満足度の向上に繋げていきたい。 各種体験等に関する満足度は703件の回答に対して、98.2%の高評価の満足度となった。 今後についても新しい企画を検討と既存イベントの充実を図り、来館者・イベント参加者の満足度を高めるように努力する。		全ての満足度が要求水準を10ポイント以上超える高い数値となっていることは、日頃のスタッフの心掛けや創意工夫によるものであると評価します。引き続き、様々な利用者層に満足いただけるようなきめ細やかな対応、充実した企画運営などに努めてください。	
結果概要	・総合満足度:96.9% (回答数291件、市要求水準70%) ・接遇に対する満足度:97.1% (回答数276件、市要求水準80%) ・各種体験等に関する満足度:98.2% (回答数703件、市要求水準80%)				
利用者からの意見・要望とその対応	【意見】 ・サケがかわいい。キーホルダーも買いました！！子供も楽しんでいました。 ・サケの稚魚の群泳が円筒形の水槽でかんさつしやすかった。 ・さけ科学館に来なければ知りえない情報が多数ある。子どもの学習に適す。 ・小さい子供だと抱っこしないと近くで見られないところがあるので少し残念です。 ・水槽がとてもキレイで管理されていてよかったです。 ・他の水族館では見られない模様のサケ、マス類が見られるところが良いと思います。エサやりも魚がとっても元気でかわいかったです！ ・爬虫類のコーナーにいた方がとても親切に教えてくれました。 ・外来種問題への言及が多くて良かった。 ・1つ1つの説明がわかりやすく展示も見やすい。素晴らしい施設でした。 ・「お声がけください」の案内も多く親切だと感じました。東京から来たのですが帰ったら家族にも来館を進めようと思います。				

・札幌観光できました。小樽の帰りに寄りましたが、ここが一番ワクワクし楽しかったです。
・飼育展示室にいる魚たちのサイズについて、ふ化からどの程度経っているのかもっと詳細が知りたい。(一部のみ書いてありましたが)
・教育的価値がとても高い施設だと思いますので、継続的に調査・研究及び共有をよろしくお願いします。

【対応】

・今後もお客様が楽しく見学して頂けるように、丁寧な分かりやすい説明を心掛け、満足して頂けるように努める。

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R6年度計画	R6年度決算	差
収入	43,663	50,459	6,796
指定管理業務収入	42,213	44,450	2,237
指定管理費	42,213	44,339	2,126
利用料金	0	0	0
その他	0	111	111
自主事業収入	1,450	6,009	4,559
支出	43,401	50,062	6,661
指定管理業務支出	42,850	47,788	4,938
自主事業支出	551	2,274	1,723
収入-支出	262	397	135
利益還元	0	0	0
法人税等	262	174	▲ 88
純利益	0	223	223

▽ 説明

▼ 指定管理費収入について、指定管理費収入について、「札幌市都市公園の維持管理に関する協定書の改定協定書」による116千円の増額、「札幌市都市公園の維持管理に関する協定における費用見直し等に関する確認書(電気料金等)」による2,010千円の増額があり、合計2,126千円の増となった。

▼ 自主事業収入は、魚類調査や技術指導等の業務受託により、計画より4,559千円の増となった。

▼ その他収入は、受取寄附金収入111千円による。

▼ 指定管理業務支出は、光熱水費の高騰や、人員配置の見直しなどで、計画より4,938千円の増となった。

▼ 自主事業支出は、収入の増加に伴う売店商品の仕入費や、公益事業への繰入金などで、計画より1,723千円の増となった。

▼ 利益還元については、公益法人の特質上、収益の約半分を繰り入れている。

受託業務は、札幌市内の河川におけるサケ等の生態調査をはじめ、生物環境改善・普及啓発業務など、さけ科学館職員の経験・知識を活用して対応できる業務を受けた。今後も本来業務に支障をきたさない範囲で積極的に受託し、差益を施設運営費に充当することと、業務で得られた知見を利用者に還元することにより、教育普及に役立てていく。

エサやりは、小さい子どもでも簡単にできる体験のため、無料体験のない日でもエサやりができるよう販売しており、利用者に大変好評であった。今後も販売を継続し、収支と利用者サービスの向上に努めていく。

A B C D
受託業務で収益を得、施設運営費に充当しつつ、得た知識を教育普及に役立てていることを評価します。今後も可能な限り経費の削減に努め、利用者ニーズに沿う収支バランスに努めてください。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

▼札幌市公園緑化協会の財務状況等は、令和6年度、赤字決算となり、運営安定化積立資産も取り崩すこととなった。全体を見るとあきらかに指定管理費が不足しており自主事業のさらなる増収増益を行い経営能力の安定化を図って行かなければならない。

適 不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

▼各条例の規定に則り、全て適切に対応した。

▼情報公開請求はなかった。

▼当公園の管理等に係るオンブズマンの現地調査はなかった。

▼公園使用者に対する告知として、暴力団活動や暴力団の資金源となる活動に公園を使用できない旨の文書を園内に掲示した。

▼物品購入や業務の委託等に際して、暴力団員や暴力団関係事業者を相手方としないよう徹底した。

適 不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
大きな問題も発生せず、お客様の安全を最優先に施設の管理運営を行うことができた。 「サケ稚魚体験放流」の際には、多くのボランティアが参加し、お客様からボランティアの対応が非常に良いとの高評価を得ることができ、お客様が快適に体験放流のイベントに参加できる環境を提供することができた。 「さかなウォッチング」や「さっぽろサケフェスタ」のイベントは多くのお客さんが参加し満足度も高かったことから成功であったと評価する。 「サケたちのエサやり体験」の際は、ただ餌をあげるだけでなく、サケの生態や普段の給餌の仕方や魚種ごとの餌の食べ方などを解説し、参加者から好評を得ることができた。 「札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム2025 川の環境の目標を一緒に考えよう！」では、豊平川のサケ調査と、山鼻川の環境保全活動を紹介したのち、パネルディスカッションでは、サケや水辺の生き物にとってどのような環境が、どれくらいあると良いのか、河川管理者とともに考え、市民が川の環境について考えるきっかけづくりができた。また、学生ポスター発表では、11グループがサケや水辺の生き物に関する発表を行い、参加者が熱心に質問する姿が見られ、活発な意見交換をする事ができた。 井戸点検整備業務等の実施の際は、お客様の見学に支障がないように実施することができた。 エスコンフィールドで開催された北海道日本ハムファイターズとの連携事業「しゃけまる水族館」では、多くの来場者(計23,000人)で大変賑わい、来場者にさけ科学館のPR活動を行うことができた。 「両爬の生態系をかんガエル・札幌市南区チーム」及び「市環境局環境都市推進部環境共生担当課」と連携し、飼育展示やイベントを通じアメリカザリガニやアズマヒキガエルの外来種に対する普及啓発活動等を引き続き行うことができた。この取り組みにより、多くのお客様に対してアメリカザリガニやアズマヒキガエルの生態や外来種についての理解を深めることができた。	今後もお客様の安全を第一と考えて、安全・快適に見学してもらえるように、施設管理運営を実施して行く。また、近年多くなる傾向にあるクマ出没時や大雨・台風等の災害が予測される時は、みどりの管理課・真駒内公園管理事務所・協会事務局と情報を共有し、今後も適切に対処する。 「体験放流」や「サケたちのエサやり体験」等の各種イベントは高評価であったが、今後についてもお客様が楽しく学べ、サケや河川環境に目を向けてもらえるイベントを実施していく。 「札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム」では、多くの方が来場者するため、今後の豊平川のサケを考えてもらえるように内容を考えて実施していく。 飼育用水が減少する井戸点検整備等の大きな工事の際は、業者との連携を密にし、今後もお客様の見学に支障がないように努めていく。 エスコンフィールドで開催された館外活動の連携事業は、さけ科学館に来たことがない方へのPRの場でもあるため、可能な限り対応し、さけ科学館の利用促進に努める。 「両爬の生態系をかんガエル・札幌市南区チーム」及び「市環境局環境都市推進部環境共生担当課」と情報を共有し、今後もお客様にアズマヒキガエル及びウチダザリガニについて解説等で普及啓発活動を実施し、札幌の水辺における生物多様性を保全するように努める。
【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
全般について要求水準を上回っており、安定した管理運営が行われています。特に利用者からの高い満足度は丁寧な接遇・解説がなされているものと評価します。また、施設内にとどまらず、館外での講演会や広報活動など、積極的な活動が行われておりました。 今後も環境教育の場として、幅広い利用者層に親しまれる施設を目指し、より一層の情報発信や企画展等を含む新規事業の検討に努めてください。	上記の所管局評価を参照してください。